

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	在宅高齢者介護予防・生活支援事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	O4	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	高齢者支援課			
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	石井 由美子			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	自力での外出が困難な65歳以上の市民	意図	外出困難な高齢者に対して理髪の際の確保及び通院等を支援し、在宅生活の継続、質の向上を図る。
事業内容	訪問による理美容サービスを年6回利用できる。また、市から委託された事業者の移送車両により、利用者の自宅から利用している施設や病院等の入り口までの移動および乗降の介助を行うなど、必要とする保健、医療、福祉サービスの支援を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	訪問理美容サービス、外出支援サービスとも高齢者へのアンケート調査に基づいて、平成13年4月に開始したサービスであり、平成30年度末における登録者数は、訪問理美容サービス28名及び外出支援サービスが214名である。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	訪問理美容サービス（月平均）	5	5	6	人	↑↑↑	
②	訪問理美容サービス利用回数	63	54	69	回	↑↑↑		
③	外出支援サービス利用者人数（月平均）	88	101	113	人	↑↑↑		
④	外出支援サービス利用回数	3,499	3,879	4,487	回	↑↑↑		
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） 訪問理美容・外出支援ともに増加傾向にある。 今後も高齢者人口が増えていくことから利用回数が増えていくことが見込まれる。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		12,358,920	13,110,900	14,482,300				
事業費(b)(円)		8,239,920	9,083,700	10,527,100				
うち一般財源		8,239,920	9,083,700	10,527,100				
職員給与費(c)(円)		4,119,000	4,027,200	3,955,200				
人役・職員(人)		0.60	0.60	0.60				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	広報及びホームページ等で周知を徹底することで、サービスを必要とする方に提供できるように努める。	③取組における課題(Check)	高齢者の増加に伴い、対象者が増加することが想定できる。サービスを必要とする高齢者に分かり易い周知が必要である。
②H30に実施した取組(Do)	広報紙やホームページ等でPRを図った。また窓口や電話での問い合わせに対し丁寧に制度の説明を行った。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	引き続き電話や窓口、民生委員会議や高齢者なんでも相談室等を通じて制度をPRし事業の周知に努めるとともに高齢者に分かり易い説明を行う。